

印旛普及だより

第 26 号

〒285-0026 佐倉市鎌木仲田町 8-1 TEL : 043-483-1128 FAX : 043-485-9502
ホームページアドレス <http://www.pref.chiba.lg.jp/ap-inba/inba/mokuji/index.html>
発行：印旛農業事務所 改良普及課・印旛地域農林業振興普及協議会

現状分析を重視した園芸産地の活性化支援の強化

◆ はじめに

印旛農業事務所では、本年度から、園芸品目の産地分析を踏まえた産地づくり支援を強化しています。

取組にあたり、関係機関との連携により課題の共有化を図りながら、現状分析結果に基づき、産地目標を設定しました。そして、目標実現に向けて、普及指導計画に明確に位置付けて、活動に取り組んでいます。

◆ 対象品目及び産地

印旛地域には、多くの園芸品目があります。今回は、「JA富里市の春ニンジン」「JAいんば園芸部のニンジン・スイカ」「白井市の梨」「JAかとり香取西部園芸部のかんしょ」「JAいんば大和芋部会のヤマトイモ」を対象品目と



した普及活動について、次頁より紹介します。

また、これ以外の産地支援では、スイカの急性萎凋症対策や、花き産地での生産管理技術対策等も実施しています。

◆ 産地育成支援の目標

対象産地に対する主要な目標

事項は、①作付面積拡大②品質改善・収量増大③生産者拡大④組織力強化⑤ナシ老木の早期改植⑥所得拡大等です。

今後も、北総農業地域を牽引する園芸産地に対して当事務所は、重点化した計画活動により、産地を構成する担い手が安心して農業経営に取り組めるよう、現地活動を積極的に展開して参ります。



◆ 対象品目別普及活動

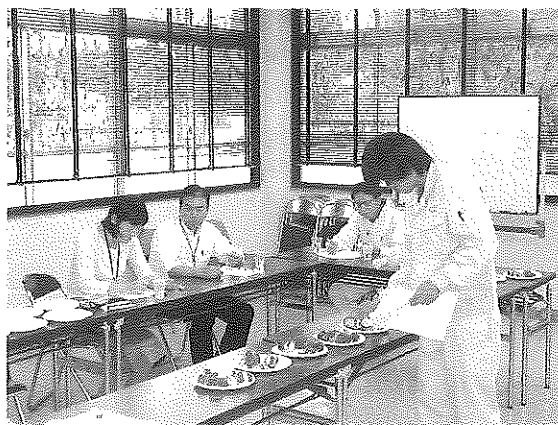
印旛・香取地域での さつまいもの産地振興

成田市の台地畑作地帯には、約700ha(JAかとり、JA成田市管内)のさつまいも産地があり、主力品種「ベニアズマ」を中心に、「大栄愛娘(高系14号)」や「クイックスイート」、「ベにはるか」等が栽培されています。しかしながら近年、茨城県などの近県産地の台頭により、産地間での競争も激化してきており、価格面での影響が出てきています。

そこで、さつまいもの品質向上と生産安定のための技術改善や粘質系品種の特性把握と実需者への周知、栽培技術向上を図ることで、産地の維持・発展につなげる活動を展開しています。香取地域との連携では、昨年に引き続き、4農協(JA成田市・JAかとり・JA佐原・JA多古町)とJA全農ちば、千葉県農林総合研

究センターが連携して活動を展開しています。

特に技術面では、食味の良くなさつまいもの安定供給に向けて、栽培方法や貯蔵期間と食味との関係を明らかにするための肥料試験・貯蔵事例調査を実施しています。



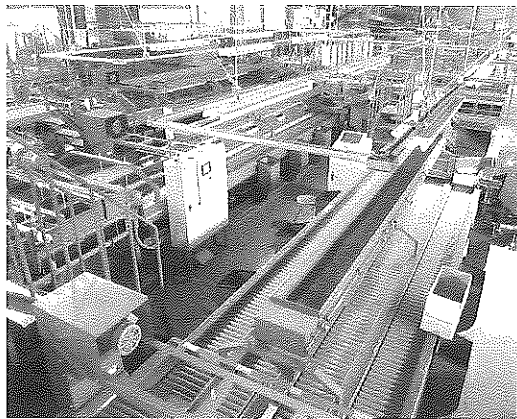
食味試験の様子

他産地に負けない「千葉のさつまいも」の産地づくりのため今後も各関係機関の連携を深め、良食味の栽培技術の確立や品質の維持向上のための貯蔵技術の改善に取り組んでいきます。

野菜産地の維持発展

八街市・富里市では、秋冬ニンジンとスイカを軸とした経営が、野菜大産地を支えてきました。

八街市では、JAいんばが秋冬ニンジン産地の維持発展のため、平成24年度の「地域自主戦略交付金等事業」により、ニンジン選果機の再編整備を行い、これに伴う産地戦略の再構築を進めています。



JAいんばのニンジン選果機

一方、スイカの生産現場では、価格の低迷、資材費の高騰、担い

手の減少や高齢化等から、作付面積が減少傾向にあります。この一部は、春ニンジンへ移行し、新たな産地が形成されつつありますが、市場における有利な単価を確保し、野菜産地を維持するためには、スイカ、春ニンジンのロットの確保が必要です。



春ニンジン検討会

そこで普及では、これからの担い手確保とともに、スイカの各種病害対策と、新規導入品目としての春ニンジンの栽培技術の確立を図ることで、生産量を確保し、農家経済の安定化を支援していきます。

「しろい梨」を ブランドに!

白井市の梨の栽培面積は、面積・生産量が全国一位の千葉県の中で、最大の面積を誇っています。近年、都市化の進行に伴い直売の割合が増加しています。市場出荷量は千葉県全体の40%を超える、千葉県を代表する産地です。現在、より一層広く白井市の梨を知ってもらおうと、印旛農業事務所では、白井市梨業組合、白井市、JA西印旛と連携し、様々なPR活動を行い、「しろい梨」のブランド化に力を入れています。

昨年は、白井市内や近隣住民へのPRとして、『なし坊フェスタ』を開催しました。当日は「豊水」の試食のほか、梨の皮むき競争や重さ当てクイズなどのゲームも開催し、来場者は700人を超えました。地域住民だけでなく、市場関係者等へのPRと

して、「幸水」の初出荷に合わせて消費宣伝も行いました。梨園に市場関係者や地域の親子を招き、白井市長と梨業組合長が消費宣伝を行いました。その他、市場や柏レイソルのスタジアムでの試食宣伝等、さまざまなPR活動を行っています。

また後継者の育成にも力を入れています。白井市を中心とした印旛地域の梨後継者によって結成された『梨友会』では、梨の栽培技術の習得に励んでいます。講習会の他、梨のPRイベントへも積極的に参加するなど、様々なことを学んでいます。



なし坊フェスタで活躍する
後継者組織「梨友会」のメンバー

やまといも産地の再強化

やまといもは昭和30年代から生産が開始された佐倉市の歴史ある基幹品目です。県内2位の生産量を誇っていますが、近年生産額が減少し、担い手の高齢化も進んでいます。

農業事務所ではJAいんば大和芋部会の協力のもと、産地の課題を①作業効率の向上による面積の維持、②根部障害の回避による品質向上、③知名度向上による販売単価の向上などに整理しました。

その課題の一つ産地面積を維持するための担い手対策としては、後継者による研究部門が設置され、様々な課題に取り組みが生まれました。

農業事務所はコーディネートとしての役割を担っており、6月には消費拡大に向けた加工について検討したいとの要望を受けて、市、JA、商工会議所や生

活研究グループと連携した情報交換会を実施しました。ここでは、やまといも料理13品を調理し、参加者から評価を集め、今後の販売促進につなげる意見交換を行いました。



情報交換会でのやまといも料理の試食

今年度は多古町や香取市といった同じやまといも産地を抱える香取農業事務所や農林総合研究センター、JA全農ちばと連携した支援体制をとっており、今後も障害芋対策の試験や他県への視察等を行いながら課題解決に取り組んでいきます。

「米トレーサビリティ法」 について

米トレーサビリティ法は、米・米加工品の取引等をした際に、「記録の作成・保存」及び「産地情報の伝達」を義務付けるものです。

生産者をはじめ、米・米加工品を扱う全ての事業者が対象となります。

対象品目(米・米加工品)

- 玄米、精米、種もみ
- 米粉や米こうじ等の中間原材料

● ご飯、炊き込みご飯、おにぎり、もち、だんご、米菓など

取引等の記録の作成・保存

米・米加工品を取引、事業者間の移動、廃棄を行う場合に、「品名、産地、数量、年月日、取引先名、搬出入の場所、用途が限定されている米穀(加工用米など)はその用途」を記録し、原則3年間保存する必要があります。

実際の取引においては、必要事項が記載されている伝票類(帳簿も可)を保存することで、記録・保存の義務を果たしたこととなります。

産地情報の伝達

国産米は「国産」、「千葉県産」など、事実に基づき産地を伝達することが必要です。

① 事業者間の産地伝達

米・米加工品を取引、事業者間の移動を行う場合、商品の容器・包装又は伝票などへ記載

② 一般消費者への産地伝達

米・米加工品を販売する場合、容器・包装へ直接記載

問い合わせ先

○ 農林水産省関東農政局千葉地域センター流通監視チーム

電話 043(224)5615

○ 県安全農業推進課食の安心推進室

電話 043(223)3082

頑張れ! 経営体育成セミナー生

印旛農業事務所では、新規に就農した青年農業者を対象に、農業経営に必要な基本的知識・技術の習得や仲間作りを目的に、印旛農業経営体育成セミナーを開催しています。

本年度は、1年目の基本コースが16名、2年目の専門コースが14名、3年目の総合コースが17名、合計47名が、関係機関の協力を受けながら頑張っています。

5月30日に開講式、6月18日に交流を進めるためのスポーツ大会、7月18日に指導農業者との視察及び意見交換会を開催し、今後は先進視察研修等を予定しています。

セミナー修了数年後には、「千葉県農業士」として活躍される方もおり、現在のセミナー生も将来の中核的農家として期待されます。

平成26年度 千葉県立農業大学校の 学生募集

農業の発展に寄与する優れた農業の担い手及び指導者の育成を目指す、千葉県立農業大学校の農学科及び研究科の学生を募集します。

試験期日 推薦入試

平成25年10月29日(火)

試験期日 一般入試

A日程

平成26年1月9日(木)

B日程

平成26年2月14日(金)

試験場所

千葉県立東金青年の家

申込・問合せ

千葉県立農業大学校

〒283-0001

千葉県東金市家之子1059

電話 0475(52)5121

FAX 0475(54)0630

ホームページ

<http://www.pref.chiba.lg.jp/noudai/>